

五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2023年2月10日

In Seattle

シアトルにて

約3年ぶりにワシントン州最大都市で州都のシアトルを訪れました。

そのレポートをする前に卵不足に関するニュースがアップデートされていたのでシェアさせてください。

カリフォルニア州のみならず全米で深刻な卵不足問題にやっと希望の光が見えてきました。



米国農務省の報告で卵の卸売価格がようやく下がり始めたと報じています。

まず米国中西部では1月末から卵1ダースの卸売価格が0.58ドル下がりました。

ただしこれは卸売価格なので、グロサリーストアでの店頭価格までは大きく改善されていない状況です。

この傾向が続けば、早い時期に消費者にとって目に見える形で価格が安定する時が訪れると予測されています。



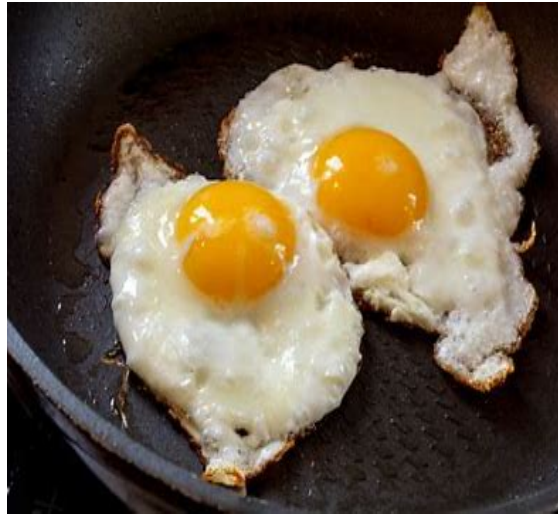
なぜこの事態が好転するのに時間がかかったのでしょうか？

それは2022年の11月頃から発生した鳥インフルエンザで国内の採卵鶏が壊滅的な打撃を受けた為、卵を産む鳥の群れ全体が淘汰された結果、卵の供給量が激減し残った卵の価格が高騰に繋がりました。

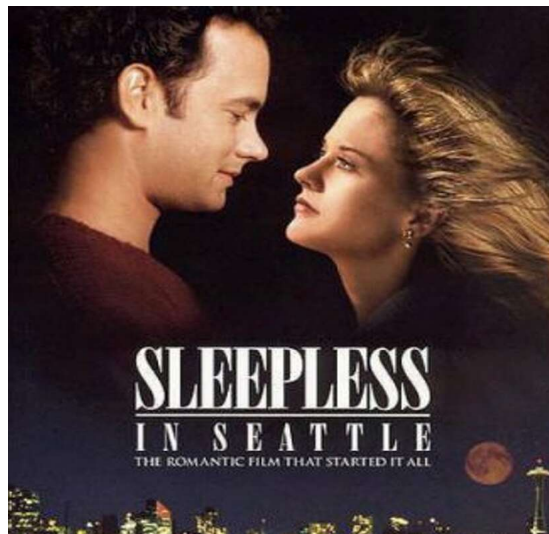
アイオワ州立大学によると養鶏農家は実質的にゼロからヒナを育てる必要性に迫られヒナが卵を産めるように育つまでに16~18週間かかります。

そのような状況なので、ここにきてようやく市場は好ましい状態に回復しつつあります。

躊躇無しに目玉焼きを食卓に並べられる状態がもうそこまで来ている様子なのでとりあえずは安心致しました。



では本題のシアトルについて、写真を交えながら紹介いたします。
ロスアンゼルスからシアトルまでは空路で約3時間かかります。
機内でトム・ハンクスとメグ・ライアン共演で有名な”Sleepless in Seattle（めぐり逢えたら）“を久しぶりに鑑賞しながらシアトルへとむかいました。



この映画を見る度に、いつも印象的なのが『だってシアトルは一年のうち9か月は雨の日だよ。』というセリフです。

シアトルは本当に雨の日が多いのですが、幸いにも私が滞在した2日間はとても暖かくて快晴が続きました。

今回は時間に余裕がありましたので空港からは Link Light Rail という列車に乗ってダウンタウンへ移動しました。



西海岸の観光客数はだいぶコロナ前に戻りつつありますが、未だにシアトルのダウンタウンにある多くの外食は 20 時に閉店してしまいます。

19 時くらいでもご覧のように人の往来は未だに少ないです。



シアトルは西海岸都市の冬場では最も気温が低く、あまり遅くまで人が出歩かないというのもあるのでしょうか。

地元の人の話では、5月には米国全土で緊急事態宣言が解除される事と気温も暖かくなるので観光客も増えるから開店時間も長くなるとのことでした。

今は20時以後までお店はオープンしていて、女性一人でも安心して食事ができるのはホテルにあるBarです。

この日の夜はBarでクラムチャウダーとパン、そしてシアトル産のオイスターを半ダースだけ頂きました。

翌日は視察に合流し、2022年3月に開店したシアトルを中心に16店舗を展開する生協PCC Community Marketを訪問いたしました。

1953年に地元に住む15の家族が安心安全、無農薬の食料品を低価格で購入するために作った生協ですが、現在は10万人以上のメンバーが加盟しています。

メンバーになるための永久会員費は現在\$65で年会費ではなくメンバーでなくてもショッピングは出来ます。

メンバーになると限定の割引デイ、お料理教室への参加、そしてdividendと呼ばれる年度末の売り上げ利益の一部をメンバーに配当金として還元するなどの特典があります。

店舗で扱う農産物の95%以上はオーガニックで、できる限りワシントンやオレゴン州の地元の青果を扱っています。





農産物はとても新鮮で味も濃くて美味しいです。
店内のイートインにて参加者の皆様とスープを頂きましたが、インスタキッチンで新鮮な素材を使用して作られたスープに全員が舌鼓を打っていました。



店内のアートは地元のアーティストが描いたようで、この時は近所の子供たちが描いた塗り絵のコンテストが張り出されていました。



続いて米国で大人気の Trader Joes へ行きました。



ちょうど14回目のお客様が投票して選んだ商品トップ5を紹介していました。また新しく発売されたイワシ缶の布エコバッグが好評でした。



これはイワシ缶で作れるメニューとレシピがかかれてあり明るい水色がとても映えるデザインです。

そしてシアトルの大型店といえば、ここ Fred Meyer です。



1922年にオレゴン州ポートランドで創業したFred Meyerは現在オレゴン州とワシントン州中心に約130店舗を展開して、現在はKroger傘下となっております。

今回は空港近辺のFred MeyerのHyper Storeと呼ばれる大型店を訪れました。ちなみにAmazon Fresh Groceryにも訪問しましたが、Amazon Goと同じスタイルのJWO(Just Walk out)の店舗で天井には複数のカメラが設置されておりました。

店内は閑散としており棚の商品もガラガラで、我々以外にお客がおらず、ちょっと写真撮影しにくい感じでしたのでアップしていません。

今月初めの業界ニュースではAmazon FreshとAmazon Goの店舗をいくつか閉鎖するということが発表されておりました。

最初の予定では2023年末までに500店舗以上の出店を予定していたAmazon Freshですが、未だに50店舗にも届かず停滞しております。

まあAmazonは走りながら様々な調整をするのが彼らの方法なので、予定はあくまでも予定ということなのでしょうが、今年に入って大幅な人員削減も行っているんで、ちょっと大丈夫かしら？とも懸念しております。

さて皆様、シアトルバージョンはいかがでしたか？
これからもリアルに訪問する様々な店舗の、新しいお写真をアップデートしていければと思います。